

# || 編 || 集 || 後 || 記 ||

学術雑誌「旭川医科大学研究フォーラム」の第3巻第1号、通算4号をお届けします。諸般の事情で原稿依頼・回収・編集の作業が大幅に遅れ、ほぼ1年ぶりの刊行になってしまいました。深くお詫び申し上げます。

今号は、従来の路線とはやや異なる内容になっています。本誌バックナンバーでは、「研究フォーラム」というタイトルが示すように、本学教官の研究活動を紹介することに重点を置いてきました。しかし今号では、研究と並んで重要な柱である教育関連の活動を紹介することに思い切って紙数を費やし、冒頭に2つの特集を組みました。ひとつは、本学医学教育実践指導センター内に開設された「スキルズ・ラボラトリー」の紹介、もうひとつは、本学の度重なるカリキュラム改革の現状報告です。

医学教育の重要な要素を占める臨床実習は、全国的に、ここ数年で、従来の見学型臨床実習から参加型臨床実習へと大きくシフトしています。参加型実習は本学医学科の「新・新カリキュラム」でも大きな柱のひとつですが、参加型実習を充実させるために本学の医学教育実践指導センター内に設置されたのが、スキルズ・ラボラトリーです。その概要を写真と解説文で紹介しました。取りまとめの任に当たられた高後教授に御礼申し上げます。

「カリキュラム改革の現状」については、2002（平成14）年が医学科のいわゆる「新カリ」から「新・新カリ」への移行の初年度ということもあり、一般教育分野の紹介が主になっています。基礎医学・臨床医学のカリキュラムの特色については、いずれ機会を改めて詳しく特集したいと思います。また、看護学科においてもカリキュラム改革が進行していますが、今回は科目展開図だけにとどめました。取りまとめの任にあられた石川教授に御礼申し上げます。

教官の専門的な研究を依頼論文として掲載するコーナーは、原著・総説・報告と、バラエティーに富むものとなりました。今回初めて、本学保健管理センターのスタッフによる論文も掲載し、ますます執筆者の幅も広がりました。前回同様、附属病院看護師の手になる投稿論文も掲載することができました。

附属病院といえば、今回の回顧資料は昭和51年度のもので、この年最大の出来事が附属病院のオープンでした。膨大な資料の中から、当時の学長と庶務課職員による文章をそのまま転載しました。

本学教官執筆書籍を紹介するコーナーでは、今回もバランスよく2冊を紹介することができました。なお、名誉教授によるエッセイは、諸般の事情で今回は割愛しました。

表紙のデザインは、いつもの通り今井充氏（整形外科学講座技官）をお願いしました。プロのデザイナー顔負けの技量には毎号ただただ感服するばかりです。今井氏自身による「表紙解説」からも伺えるように、デザインのコンセプトやモチーフも極めて明快です。バックナンバーと合わせ、宇宙の誕生から地球を含む太陽系の誕生までのイメージ画を御堪能ください。今後さらに、地球における生命の誕生とその進化、脊椎動物の誕生とその進化、人類の誕生、文明の誕生……というように展開していく予定と伺っています。

読者の方々からの忌憚のない御意見をお待ちしております。最後になりましたが、原稿の執筆・査読にあられた方々と、印刷・製本を引き受けてくださった東洋印刷の方々に厚く御礼申し上げます。

平成14年12月

〈K・H〉

編集委員（五十音順）	片 桐 一（副学長／委員長）
	木 村 昭 治（看護学講座）
	近 藤 均（歴史／副委員長）
	塩 野 寛（法医学講座）
	新 開 淑 子（看護学講座）
	中 村 正 雄（化学）
	廣 川 博 之（医療情報部）